

低圧進相コンデンサの発火危険性について

低圧進相コンデンサの発火危険性についての情報です。

保安装置（異常が生じた場合、コンデンサを電源から切り離しができる装置）が内蔵されていない昭和50年（1975年）以前に製造された低圧進相コンデンサは、長期間の使用による経年劣化からその内部で電気絶縁性がなくなり絶縁破壊が生じて破裂し燃え上がる危険性があります。

（内部短絡電流による絶縁体の炭化と内圧の上昇でケースが破壊し空気に触れて燃え上がる）
火災事故の未然防止のために是非下記のパンフレットを一読願います。

（パンフレット提供 社団法人 日本電機工業会）

動力200V電力ご使用の皆様へ

日頃は日本電機工業会の活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。この度、日本電機工業会では古い低圧進相コンデンサによる火災事故の未然防止としてお取り外し及びお取替えのお陰をしております。つきましては下記内容をご確認頂き、工場や店舗の点検をお願い申し上げます。



「古い低圧進相コンデンサ」は発火の危険性があります！



昭和50年（1975年）以前に製造されたMP式低圧進相コンデンサは、既に寿命がきています。場合によっては火災にいたる危険性がありますので早急にお取り外し、お取替えをお願いします。

低圧進相コンデンサをご存知ですか

低圧進相コンデンサは業務用冷蔵庫やモーター等を使用する電気機器の効率を改善し、電力の無駄を省く機器として、店舗や作業場等で使用されています。電圧は200V動力回路で使用されています。



長年のご使用により絶縁破壊することがあります。

昭和50年（1975年）以前に製造された低圧進相コンデンサは保安装置が内蔵されていないため、万一の内部故障時には二次災害（発煙・発火）に至る可能性があります。

事故例



昭和50年（1975年）以前の低圧進相コンデンサを使用されている場合は、お取り引きのある電気工事店様又は電気保守管理者とご相談頂き、お取り外し、又はお取替えをお願いします。